

施策	63	地域資産の保存継承	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり		
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3740	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一
施策関係課名	歴史研究所、公民館、美術博物館、文化会館、図書館						
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市歴史研究所第3期中期計画「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針					

1 施策の目的

目的	対象	地域資産(価値が見出された地域資源)
	意図	保存・継承される(活かし続ける)

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	558	580	618	647	670	679	700
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
保存・継承されている地域資産の累計割合	%	100	100	100	100	100	100	100
保存・継承されている地域資産の数(累計)	件	558	580	618	647	670	679	700

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	所有者・地域での保存・継承活動を支援する。 地域資産を保存・継承する。	支援の数(保存団体等への資金等の支援数、教委データ、件)	18	18	19	23	30
		保存・継承している地域資産の数(教委データ、件)	618	647	670	679	700
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	保存・継承する。	保存・継承活動を行っている団体・個人の数 保存・継承している地域資産の数					

3 平成26年度の評価結果

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・施策の主管・関係課が連携し、かつ多様な主体と協働し、地域資産の保存継承と活用に取り組んだ。26年度においては、特に中心市街地において旧飯田町の風情を残す「橋北まるごと博物館」のエリアにある菱田春草生誕地を、春草生誕140周年の節目にあたり、地域及び市民組織と協働して、生誕地公園として整備したことが特徴的な取組みであった。

< 市民による保存活動への支援 >

・国選択無形民俗文化財である今田人形、黒田人形、国重要無形民俗文化財である霜月祭りの保存継承活動への支援を行った。霜月祭りにおいては、高齢化と人口減少にともない保存継承の担い手確保が年々難しくなっている。
・所有者等が行った県天然記念物の立石の雄スギの樹勢回復、市天然記念物の愛宕の清秀桜の養生について、市文化財補助事業補助金交付要綱に基づき支援するとともに、恒川官衙遺跡を含む座光寺地域の2000浪漫の郷の構想検討、市内主要古墳の保存活用、県天然記念物のモリアオガエル繁殖地の環境整備、市有形文化財の旧瀧澤医院の保存整備等について、関係する地域における取組みへの支援や、今後の取組みについての協議を進めた。

< 地域資産の保存・活用 >

・26年3月に国史跡となった恒川官衙遺跡については、史跡専門委員会を設置して、今後の保存管理と整備方針を定める保存管理計画の策定を進めた。
・「橋北まるごと博物館」のエリアにおいて、25年度に修復整備した国登録有形文化財の旧飯田測候所の活用を図るとともに、春草生誕地の公園整備、下伊那教育会館・黒須家門等4棟建築物の国登録有形文化財登録を進め、エリア全体を保存活用していく取組みを地域と協働してさらに進めた。
・飯田古墳群については、各古墳の詳細情報をカルテ形式に整備するとともに、今後の保存活用措置について県教育委員会及び文化庁との協議を進めた。また、各地区において古墳の保存活用を実践している団体に呼びかけて「飯田古墳群を語る会」を組織し、地域を超えたネットワークづくりを進めた。
・名勝天龍峡の整備事業について、保存管理計画にそって、本質的な価値を損なうことなく適正に行われるよう保護管理を行った。

< 保存管理環境の維持・整備 >

・多様な地域資産を保管展示する各施設の適正な管理運営と、必要個所の修繕整備を行った。
・美術博物館、歴史研究所、図書館、生涯学習・スポーツ課等においては、地域資産・資源、各種資料の保管スペースの確保が課題となっている。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 市民による保存活動への支援 >

・「伊那谷の自然と文化」を21世紀型戦略的地域づくりの「守るべきもの・備えるべきもの」として位置づけ、これをテーマにした学術研究、学習普及、保存継承、地域づくりへの活用を図る取組を重点的に進めてきているが、今後の地域変ぼうに備え、地域資産を活かした個性と魅力にあふれた地域づくりを目指して、多様な主体と協働し、かつ、社会教育機関が総合力を発揮して、取組みをさらに進める。
・地域資産は、その多くが市民の所有・管理によっているため、多様な主体との協働関係を構築し、地域資産を地域ぐるみで保存・継承していく社会環境を醸成するとともに、指定文化財についてはその保存に必要な修繕等や、後継者育成活動に要する経費の一部を支援する。
・地域固有の貴重な文化資産である人形芝居、霜月祭りについては、南信州広域連合と県下伊那地方事務所の連携により実施される伝統行事(芸能)継承プロジェクト事業にも参加して、担い手の発掘・育成を重点にした取組みへの支援を行う。

< 地域資産の保存・活用 >

・国史跡に指定された恒川官衙遺跡の保存管理計画を広く意見を聴きながら策定するとともに、周辺にある麻績の里、南本城城跡、元善光寺、高岡第1号古墳等を含めた一体の地域を「2000年浪漫の郷」と位置づけ、地域と協働して、今後の整備活用に向けた計画づくりを進める。
・旧飯田測候所、菱田春草生誕地、下伊那教育会館、旧黒須家の門等が所在し、旧飯田町の風情を感じられる橋北まるごと博物館のエリアの整備活用を地域及び関係団体等と協働して進める。
・地域の個性と魅力を守り、育み、発信するために、伊那谷の自然と文化をテーマとした学術、普及、継承、活用の取組を関係部署と連携しながら強化するとともに、伊那谷研究団体協議会を構成する団体や研究実践者等と協働してさらに進める。
・飯田古墳群については、これまでの長年の調査研究成果を基に、その存在と価値を広く伝えるための情報発信を行うとともに、史跡指定を視野に入れた資料整備と、関係者、関係機関等との協議等を進める。

< 保存管理環境の維持・整備 >

・地域資産の展示公開施設については、中長期的な施設のあり方を検討するとともに、計画的な改修・修繕整備を行う。
・地域資産・資源、各種資料の保管方法のあり方と、保管場所の確保について引き続き検討する。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策6-3

対象
地域資産

意図
保存・継承される

成果指標

保存・継承されている
地域資産の累計割合

市民による保存活動
への支援

地域資産の保存・活用

保存管理環境の維持・整備

事務事業

伝統人形芝居振興事業

遠山霜月祭りへの補助

文化財保護事業への補助

旧飯田測候所整備活用事業

天龍峡保存管理計画推進管理事業

伊那谷の民俗芸能等記録事業

飯田古墳群保護活用事業

アーカイブズ保存活用事業

文化財管理運営事業

美術博物館管理事業

考古博物館管理運営事業

歴史研究所維持管理事業

上村山村文化資源保存伝承施設管理運営事業

南信濃民芸関係施設管理運営事業